

# Rising Moon



ダウンから 半袖に



なる 衣替え

ユーモア川柳 より

強まる日差しに夏への移ろいを感じる季節を迎えました。保護者の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。寒暖差、そして、熱中症にどうぞお気をつけください。

風薫る5月が早くも後半となり、生徒たちは今、中間テスト直前の緊張感に包まれています。ゴールデンウィーク後、修学旅行や職場体験学習があり、十分な学習時間がとれなかったことが心配されますが、その分、テスト範囲が少なくなっているので頑張っ

中間テスト



て高得点をあげてくれるでしょう。ご家庭におかれましては、お子様を温かく見守っていただくとともに、励ましのお声かけ(Iメッセージ)をお願いします。

## 子どもの友だち関係について、保護者が押さえておくべきポイント

ベネッセ教育情報に表題のような記事がありましたので紹介します。東京都立大学人文社会学部准教授の酒井厚先生へのインタビュー記事です。

子どもは、子ども同士の関わりの中で成長します。とはいえ、子どもたちだけで遊ばせておくのも心配。そんなとき、どうやって子どもの「友だち関係」を、家庭では見守ったらよいでしょうか。



### (1) 子どもは、子ども同士で人間関係を学ぶ

子どもは、子どもたち同士でかかわり合う中で、一生懸命考えながら人間関係について学んでいきます。中学生はアイデンティティー(自我同一性)を模索し始める時期であり、友だちと話す中で、自分がいったい何をを目指すのか、自分はどのような人なのかを考えるようになります。趣味や目標、将来の夢など、保護者には恥ずかしくて言えないことも、友だちだから話せることもあるでしょう。

### (2) 子どもの友だち関係を、コミュニケーションの中から把握する

まずは大人が子どもを信じて、子ども同士の世界を確保してあげましょう。ただ、何もかも手放して自由にさせているのでは、保護者の目が届かないところで、子どもがトラブルに巻き込まれることが心配になるかもしれません。そんなトラブルに巻き込まれないために、またもし巻き込まれたとしても保護者になるべく早く察知できるために、子どもがいつでも相談できる相手として保護者との間に信頼関係が成り立っていることが大切です。

そのためにも、普段のコミュニケーションの中で、子どもがどんなことに興味を向けているかばかりでなく、友だち関係がどうなっているか、また悩んでいる様子はないかなど、親は把握している必要があります。

友だち関係を把握するといっても、根掘り葉掘り聞くわけではありません。たとえば、会話にしょっちゅう登場する友だちの名前が最近変わったな、と気づくということなのです。事細かにわからなくても、友だちの名前を覚えておくことで、そうした変化には気づくことができるはず。子どもとの普段の会話の中で興味を持って聞いてみて、“ゆるく”把握する意識が大切になるでしょう。

### (3) 子ども同士のプライバシーを尊重する

中学生くらいになると、ちょっと心配する範囲も違ってきますね。子どもだけで繁華街に行きたいといったことも出てきます。そんな時、子どもから直接聞くばかりでなく、友だちの保護者から情報を得ることもあるでしょう。

たとえば、子どもが小さいころからのつきあいで、保護者同士も知り合いで家族ぐるみという仲なら、子どもは自分が何をしていたかを、友だちの保護者から自分の親に言われても、たいして気にならないでしょう。

でも、たとえば中学校になってからできた友だちで、大人同士も保護者会であいさつした程度という場合には、自分のしたことが保護者ルートで知られていることをいやだと感じる場合もあり、友だちとの関係も気まづくなってしまうかもしれません。

だからといって、子どもに内緒で、保護者だけで情報交換することはよくありません。

## 岩国地区 教育相談 担当者会議



12日(火)、岩国市教育センターに於いて、「第1回教育相談担当者会議」が開催され、岩国地区の小・中学校の教育相談担当者が参加しました。市教委からは、岩国地区の不登校児童生徒の状況やその対応についての指導、並びに、各相談機関の紹介がありました。その後、中学校区の学校で情報交換の時間が設定され、有意義な話し合いが行われました。

なお、東小・中学校は、毎月担当者同士が児童生徒に関する情報共有をしており、兄弟姉妹に関係することであれば、協働でその課題の解決にあたっています。また、小瀬小学校を含めた3校で、年3回、小中一貫教育合同研修会を実施し、その和を広げています。(「こころの部会」)

## 誰一人取り残されない学びの保障に向けた COCOLO プラン

先日、これまでの東中SUR(表題の国の事業で設置)に関する記録・データを見ていて、あることに気づきました。本校のSURは、令和5年4月から設置され、今年で4年目です。その間、多くの生徒が利用しましたが、一日単位では最大10名の生徒が通室しました。逆に、一人も通室しなかった日(出席者0名)は、令和5年9月4日と9月19日の2日のみです。(この頃はまだ新型コロナウイルス関連の欠席が多くありました) すなわち、その後の2年8ヶ月の期間で、その2日を除いて、毎日誰かが通室しているということです。よって、今日現在、533日連続で「通室者あり」です。

前号でも述べたように、東中SURでは、生徒たちの社会的自立をめざして日々指導・支援しています。一人でも多くの生徒が「自己肯定感」を高め、自信をつけて卒業してほしいと考えています。キーワードは、『愛( $i=\sqrt{-1}$ )はすべてを包む』です。

終わりに、右に、SURの様子や掲示物の一部を紹介します。



### 【こころに響く言葉 Vol.3】

#### 何で勉強しなきゃいけないの～?

お母さんは机にコップを置いて、子供にこう答えました。

「算数」を学べば、この中に200mlの水がある、と数字で見えるようになり、

「理科」を学べば、この水は水素と酸素でできていることが知れる。

「社会」を学べば、この水がどこからきたのか? がわかり、そして、世界にはこのきれいな水を飲むことができない人たちがいることを知れる。

「美術」を学べば、この水の反射を綺麗に描くことができるようになるし、

「音楽」を学べば、同じコップでも水の量で音を変えられることにも気づける。

「技術」を学べば、このコップがどんな素材で、なぜ漏れないのかがわかり、人の創造のすごさを知ることができる。

「保健体育」を学べば、この水が身体にどれだけ大切なのか、健康を支える命の正体が見えてくる。

「道徳」を学べば、この水を誰かと分け合うことの大切さを学べて、思いやりの心が育ち、

「国語」を学べば、今私が話した「全部の意味」を正しく理解できるようになる。

「英語」を学べば、この話を世界の人たちと分かち合えるようになり、

「哲学」を学べば、この話に何の意味があるのか考えられるようになる。

でも、もし何も学ばなかったら、このコップの中にある水は「ただの水」で終わる。  
だから、勉強するの! この世界をただ見ているだけの人生で終わらせないために。



I 学期後半のスクールカウンセラー来校日



5月27日(水)終日 ・ 6月11日(木)終日 ・ 6月18日(木)PM  
6月26日(金)終日 ・ 7月3日(金)終日 ・ 7月9日(木)PM